

平成 27 年度事業計画書
(平成 26 年 9 月 1 日～平成 27 年 8 月 31 日)

1. 大会およびシンポジウムの開催

第 87 回大会を平成 26 年 10 月 15 日～18 日に、京都国際会館にて開催する。また前年に引き続き JBS バイオフロンティアシンポジウムの企画も会員から公募する。

2. 会誌などの発行

会誌「生化学」および Journal of Biochemistry の発行部数は以下の予定とする。

「生化学」冊子・電子版ともに隔月発行	950/号
JB 論文誌 毎月発行	1,100/月

3. 会員について

会員数の長期逡減の傾向が続いている。これについては、ウェブサイトを更新するほか、掲示板を通して会員との意見交換の場にする、ウェブページ英語版の充実を図る。また、Eメール送信、バナーの活用により、会員への情報伝達の迅速化、充実化を図る。「生化学」電子版をオープンアクセスにし、非会員にも読まれやすくし、会員数増加を図る。

4. 会誌「生化学」について

支部選出委員の活動を通じ広い視野の内容や記事を掲載し、新企画を織り込む等内容を一層充実させる。特集号の発行にも努力する。外部企画協力委員からのプランも積極的に取り入れる。「生化学」電子版の機能を充実させ、会員の利便性の向上を図る。

5. JB 編集の強化と充実

投稿論文の増加と海外販売部数の増加を図る。ウェブページを活用し、主要論文タイトルなどを表示して、

JB の宣伝をおこなう。Impact Factor は、2.371 (2011 年)、2.719 (2012 年) 3.073 (2013 年) と上昇基調となっており、このことを会員に周知し、投稿数を増やすことをめざす。

6. 研究業績の顕彰

本会奨励賞および JB 論文賞の授与を継続して行う。公益財団法人倶進会による「柿内三郎記念賞」と「同奨励研究賞」は、候補者募集の周知をはかり、知名度を上げるよう努力をする。その他表彰および諸財団の研究助成事業に対し、本会会員より受賞候補者を積極的に推薦する。

7. 国際交流の推進

IUBMB, FAOBMB との協力を深め、国際交流を推進する。大会の中で、Cold Spring Harbor Asia によるシンポジウムを開催し、著名研究者を招聘するなど、国際交流の場を設ける。

8. 若手研究者の奨励

生化学若い研究者の会への活動支援を継続する。本会大会で発表した若手研究者への表彰(鈴木紘一メモリアル賞)を前年に引き続きおこなう。本会支部が若手研究者の研究奨励のために授与している表彰を継続する。

9. 支部活動

支部間の連携および本部と連絡を密にし、支部における研究発表会、シンポジウム、講演会等を積極的に開催する。支部会の充実を図り本部へ意見を取り入れる。